

平成 25 年度 第 2 回 JSR 編集委員会議事録

日時：平成 25 年 10 月 17 日(木) 7:00 – 8:00

会場：幕張メッセ国際会議場 1 階 103 号室

出席者：

平林 茂担当理事、川口善治委員長、青田洋一委員、赤澤 努委員、寒竹 司委員

税田和夫委員、松本守雄委員、二階堂琢也委員

三輪 敏氏 (CBR) 尾島 茂氏 (JSR 編集分室)

(欠席：笠井裕一委員、千葉一裕委員、長谷 斉委員、長谷川和宏委員)

議事

1 . 各学会の分担金の確認：

現在、年間 150 万円の分担金を各学会で負担していただいております。これは来年度も継続する。負担がかなり大きくなっている学会もあるため、現体制を維持するために、今後、減額することも検討する。

2 . 第 5 巻広告申し込み状況：

過去の実績に比べて広告申し込みが少ない状況である。昨年と同様、各編集委員に企業への広告申し込み担当を割り当て、企業へ依頼していただく。3 年連続で申し込みがない企業には連絡を行わない方向である。

3 . 論文審査状況の状況：

英文原著号の論文数が少ない状況である。英語論文が規定論文数に満たない場合には、和文論文で補う。今後も英語での Case report を増やす方向で進めることで、特徴を出していく。投稿論文を増やすためには、JSR に英語論文を投稿するメリットが必要。JSR に掲載された英語論文が PubMed に掲載されるなど何らかのメリットがあれば、論文投稿が増えるのではないかと今後の課題とする。

4 . 年間予定確認：

JSR 第 5 巻の年間予定が確認された。西日本脊椎研究会は年間 2 回の発行であり、負担が大きいという意見が出された。今後も各特集号は採択率の目標を 70% として、特集号間の採択率の格差をなくすようにすることが確認された。

5 . オンライン化について：

査読・編集のオンライン化については、学術集会抄録号を除く JSR の全号で、最終論文がメール形式で編集委員会分室へ送られたのちに印刷に進んでおり、査読・編集のオンライン化に関しての問題は生じていないことが確認された。ペーパーレス

化については、完全なペーパーレス化には多くの問題点があることが報告された。特に、各企業からの広告収入がなくなることが大きな問題点である。学会誌とオンライン化を併用する場合には、初期費用、ランニングコストの問題がクリアできれば、利点が多い。印刷とオンラインとは、製作過程が同じであることから、現在の編集方法でも容易にオンライン化の併用が可能である。現在、JSRの印刷を担当している三報社印刷株式会社でもオンライン化は可能で、実績もあり、費用も他社に比べて割安である。このため、CBRとの契約を今後も継続し、学会誌発刊にオンライン化を追加併用する方針が最良であるとの方針が出され、賛同が得られた。学会誌の発刊とオンライン化を併用する場合、年会費を払っているJSSR会員と、参加7学会のいずれかには所属しているがJSSRには年会費を払っていないJSSR非会員とでは、オンライン使用に関しての権利に差をつける案が出され、賛同が得られた。

6. 二重投稿について：

JSRの二重投稿規定に関する方針の案が「総説、Review」の場合と「原著論文」の場合について示され、同意が得られた。新たに、二重投稿が判明した場合の罰則も加えた。これらの方針を投稿規定に掲載し、平成26年1月から実施する予定である。

7. COI (Conflict of Interest)について：

COI自己申告書の導入について原案が出され、同意が得られた。平成26年1月から導入することが報告された。COI自己申告書は各学会が2年間保管する。

8. その他：

以上について合意され、閉会となった。